

平成28年度 学力向上を図るための全体計画

墨田区立中川小学校

教 育 目 標

- よく考え、進んで学習する子（重点目標）
- 思いやりの気持ちを持ち、仲良くする子
- からだをきたえ、ねばり強く努力する子

1 学習指導の重点

- ◎全ての子どもが熱中する授業、学ぶ楽しさ・わかる喜びが味わえる授業を創造する。
→学力・体力の向上をめざす。
- ・教職員は、意図的・計画的な指導を行う。
 - ・教職員は、教材研究に努め、子どもが楽しい授業を行う。
 - ・教えるべきことは教え、育てるべきことは育てる授業に努める。
 - ・わかる授業、成就感を味わえる授業の構築に努める。
 - ・基礎、基本の確実な定着を図るため、「中川スタンダード」に基づいた学習スタイルを継続していき、学習規律の徹底に努める。
 - ・各教科等において、情報機器を活用した教材の工夫や指導の充実・改善を図る。
 - ・体育科の指導においては、体力の向上を重視し、「体づくり運動」の一層の充実を図る。

2 学力向上への取り組み

- ①基礎学力の向上を目指して本校独自の学習状況調査を年3回（4月・9月・2月）実施し、学力の成果を検証していく。→漢字テスト・読解テスト・計算テスト
- ②学習状況アンケートを年2回実施する。
（家庭学習の時間、授業中の様子、勉強の取り組み等）
- ③中川家庭学習週間を年2回（7月・9月）実施する。子どもに家庭学習カードを配布し、家庭での学習内容、時間、場所を記録する。保護者にもサインをもらい、チェックしてもらうことにより、子どもの家庭学習への支援を図る。
- ④読書月間を年2回（6月・11月）実施し、読書の習慣を育て、想像力や語彙力を豊かにする。また、ティーチャーズブックトーク、レインボー班による読み聞かせ、図書ボランティアの方々による読み聞かせを行う。
- ⑤朝学習の時間（8：20～8：35）に計算タイム（計算プリント・文章題プリント）、漢字タイム（漢字プリント）、読書タイムを実施する。
 - ・漢字プリント、計算プリントについては、前期は前学年の内容、後期は学年の内容で学習する。そして、取り組んだプリントは見直しをし、復習をする。
 - ・読書の時間には図書ボランティアの方による読み聞かせも月2回実施している。
- ⑥学力補充を重点とした放課後学習（中川きっずワーク）を実施する。
 - ・学習指導員の活用を通して学習支援が有効と思われる子ども（各学年5名程度）を対象に基礎、基本の確実な定着や自己学習を支援（月、火、金曜日）を実施する。主に東京ベーシックや補充プリントにより学習する。

- ⑦学力調査の事前指導をする。(前学年の学習内容の復習、過去問の取り組み、テストの受け方・心構えの指導)
- ・ 4月19日 全国学力状況調査(6年生)
 - ・ 4月25日 区学習状況調査(2～6年生)
 - ・ 7月 7日 東京都児童の学力向上を図るための調査(5年生)
- ⑧学校支援ネットワーク事業を利用した出前授業を導入することにより、専門家を講師として招聘し、子どもの学習への興味・関心を高める。
3年生では、将棋教室(講師、中田和男様)を今年度も行う。
- ⑨学習の基礎・基本の徹底を図るため、夏季休業中(7月)に学習教室を7日間実施する。
- ⑩地域に本校の教育活動を伝えるため、小村井駅、東京東信用金庫等に図工の児童作品を年3回展示する予定である。

3 校内研究

①研究テーマ

「自分の考えを表現できる児童の育成」～学び合い活動を通して～

②研究内容・方法

- ・ 講師の先生を招いて授業研究をし、教師一人一人の授業力を高める。
(講師－弘前大学教育学部数学教育講座 教授 中野博之先生)
- ・ これまでの3年間の研究の成果のもと、「自分の考えを表現できる児童の育成～学び合い活動を通して～」を研究主題に校内研究・1月の研究発表を行う。

4 学習状況調査の結果から

『国語』言語についての知識・理解・技能に関しては4つの学年が目標値・全国平均を超えていることから朝学習や放課後学習での取り組みが成果として表れてきたと考えられる。話す力・書く力においても、自分の考えを書かせたり発したりする活動を通して表現力の充実を図ってきた成果が表れてきた。読む力に課題が残るので、主語、述語の関連を意識した読みや読み取ったことをもとに自分の考えを深める活動の充実を図る。

『社会』第5学年・第6学年に関しては目標値を全ての観点で上回ることができた。自分で課題を調べることにより、調べたことが自分の力となって表れてきた。資料を基に考える活動を充実させ、的確な判断力を身に付けさせる。また、観察・資料活用の技能に関しては、グラフや地図の読み取る活動を授業に多く取り入れ、子どもたちが自ら気付く学習を展開していく。

『算数』数学的な考え方に関しては、3つの学年が全国平均を上回ることができた。問題解決型の授業を展開し既習から自力で解決の方法を考える活動のさらなる充実を図る。数量や図形についての技能・知識・理解については朝学習や放課後学習において基礎基本の徹底を図っていく。その成果も表れ4つの学年で目標値を上回ることができた。計算タイムや放課後学習の成果が少しずつ出てきたのかと思われる。

『理科』2つの学年が観察・実験の技能が目標値や全国平均を下回り課題が残る。実生活観察・実験を通じた体験をもとに知識の習得を目指していく。また、科学的な思考・表現に関しては自分の予想に基づく観察・実験を行い、結果に対する自分の考えを説明できるような授業展開を工夫して行う。実験や観察で学んだことを知識として身に付けることに課題が残る。

学校全体で取り組んでいる中川学習スタンダードの定着に努力する。そして、子どもの授業に対するよりよい姿勢を身に付けさせ、基礎基本の定着を図っていく。